

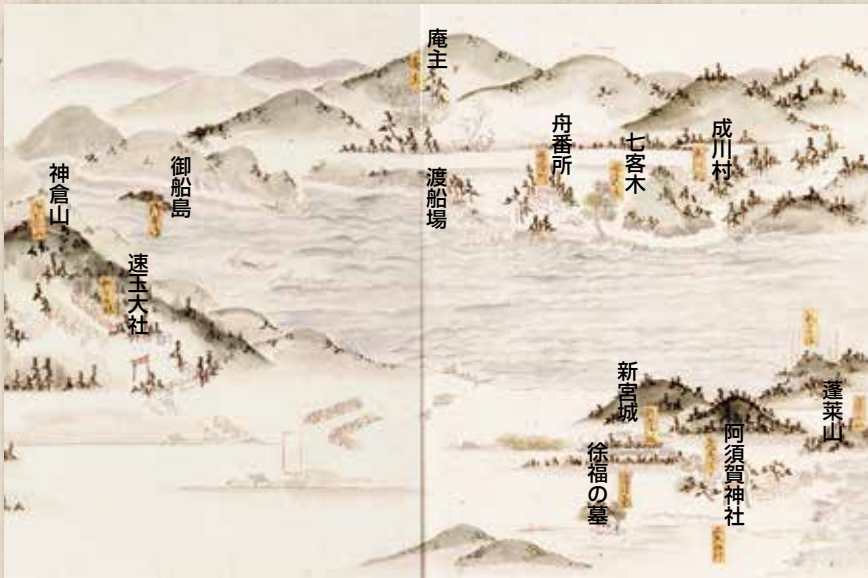
今昔物語

写真で振り返る

その35

熊中奇観 (成川・新宮)

江戸時代後期



和歌山県立博物館蔵

今回は江戸時代後期に描かれた熊中奇観(成川・新宮)をご紹介します。

本品は、伊勢から和歌山への熊野街道の景観・名所・物産を、博物学的な興味のもとに、詳細な解説文を交えながら描いた資料で、この絵では、下部の新宮側には速玉大社や新宮城などが、中央の熊野川には御船島や川を渡る川舟が、上部の成川側には、舟番所や七客木などの文字が書かれています。

成川の太西爲義さんにお話を伺ったところ、七客木とは、かつて成川にあった楠の古木で、梅、桜、楓、檜、杉の6種類の木を宿していたそうです。舟番所とは、熊野川を渡るためのお金を徴収していたところで、新宮庵主(速玉大社)が巡礼者に対し舟賃2文を徴収し、渡し舟の切手形を出していました。渡船場は現在の新熊野大橋のところにありました。

また、庵主とは、速玉大社の造営に携わっていたところで、そこには、三重県側では加持鼻王子と並ぶ九十九王子のひとつ、深谷王子が設置されていました。深谷王子はその後、川原に移転され、明治40年に中村神社に合祀されました。



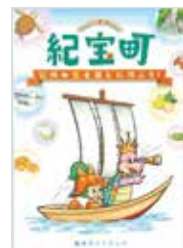
国土地理院撮影の空中写真(2007年撮影)

なお、成川村と書かれている場所は、現在の中村神社周辺で、当時は、庄屋の家屋などがあり、集落の中心地でした。

つむじりや

友人の番宣(?) します

以前も少し書きましたが、8月に原画展を行う絵本作家のやまとしんじさんは、小学校からの友人で、僕の似顔絵も彼に書いてもらったものです。



新観光ガイドブック

また、紀宝町の新しい観光ガイドブックも表紙や挿絵にイラストを描いてもらっているのですが、実は、ガイドブック作成にあわせ、こっそり紹介動画も作ってくれました。気になる方はYOUTUBEで「やまとしんじ 紀宝町」で検索してみてください。

なお、観光ガイドブックは役場企画調整課窓口やまなびの郷、飛雪の滝キャンピング場などで配布しています。(しんちゃん、いつもおおきにー 愛野裕基)

バスの豆知識

今回はバスの特集でしたが、みなさんは、バスの乗り降りの位置について3パターンあることはご存知ですか。

1つ目は、町民バスのように後ろのドアから入り、前のドアから降りるタイプ。2つ目は、前から乗って後ろから降りるタイプ。3つ目は、前から乗って前から降りるタイプ。

この3パターンがあるそうです。僕は、前から乗って後ろから降りるバスには乗ったことがありません。このタイプは東京や名古屋に多いそうです。地域によって違いがあるので、乗るときには間違えないようにしたいですね。



入口、出口が書いています



田中健太郎



田中健太郎

(バスに乗るときは緊張する 田中健太郎)